

平成 年 月 日

中国運輸局長 殿

三次市地域公共交通会議
会長 瀬崎 智之

平成 29 年度地域公共交通確保維持改善事業に係る
事業評価の報告について

地域公共交通確保維持改善事業実施要領（平成 23 年 4 月 1 日国総計第 5 号、国鉄財第 4 号、国鉄業第 4 号、国自旅第 20 号、国海内第 8 号、国空環第 5 号）に基づき、平成 29 年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価を実施したので、事業評価関係書類を送付します。

【問い合わせ先】

〒728-8501

広島県三次市十日市中二丁目 8 番 1 号

（担当）地域振興部 定住対策・暮らし支援課

（電話）0824-62-6129

（FAX）0824-62-6235

（E-mail）teijyu@city.miyoshi.lg.jp

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成 年 月 日

協議会名:三次市地域公共交通会議

評価対象事業名:地域内ライダーシステム確保維持費国庫補助金

補助対象事業者等	事業概要	前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	事業実施の適切性	目標・効果達成状況	事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
備北交通株式会社 三次町循環 南畑敷町循環	三次町循環 4.6km 南畑敷町循環 10.2km 計 14.8km	市主催のイベントで時刻表等を掲載し、利用を呼び掛けた。また、市内の中学校でバス教室を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 1循環あたり利用者を7.0人以上としていたが、実績は7.2人であった。	停留所周辺の施設とタイアップして利用を促す等、さらなる利便性の向上を図る。
NPO法人元気むらさき 作木町上地区 作木町中地区 作木町下地区	各地区週1回	作木町内を運行している市民バスとの棲み分けなどについて、運行主体と協議を行った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 一月あたりの利用者を27人以上としていたが、実績は32.0人であった。	作木町内生活交通検討会と連携しつつ、利便性の向上及び利用促進を図る。
備北交通株式会社 赤名線	一日 4往復 (車両減価償却費等国庫補助金)	利用実態に応じた運行とするため、系統の再編及びダイヤの変更を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 1便あたりの利用者を5.0人以上としていたが、実績は4.1人であった。 車両減価償却補助により1台導入した。	引き続き、ニーズの掘り起こしを行うとともに、関係自治体で協議を行い、運行内容の見直しを含め、検討を行う。
備北交通株式会社 下高野線 下高野線	下高野線 1日 3往復 下高野線 1日 1往復	更なる効率化、利用促進を図るため、沿線での住民アンケートや運行事業者との協議を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 1便あたりの利用者を4.5人以上としていたが、実績は3.9人であった。 1便あたりの利用者を3.0人以上としていたが、実績は3.4人であった。	住民アンケートの結果を踏まえつつ、更なる効率化を図るとともに、利便性向上と利用促進を図る。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成 年 月 日

協議会名：	三次市地域公共交通会議
評価対象事業名：	地域内ファイダーシステム確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>三次市は広島県北部の山間地域に位置し、面積は778.14km²で広島県の約9.2%を占めており、人口は平成29年11月1日現在で53,348人となっている。</p> <p>近年では人口減少・高齢化が進展しており、平成27年の高齢化率は35.0%、また15歳未満の年少人口比率は12.5%となっている。こうした状況の中、誰にとっても安心して暮らせる地域づくりのためには、来訪者を含めた、誰もが安心して移動することができる地域公共交通システムの構築が必要不可欠である。その一環として、中でも、公共交通の主たる利用目的である通勤・通学、通院、買い物物の利用を促進するため、病院や高校など市中心部への移動手段を確保し、地域間幹線系統と接続するファイダー系統(デマンド型・路線型)を組み合わせることで、生活交通網の構築を進めているところである。</p>

平成29年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価

三次市地域公共交通確保維持改善事業 事業評価

三次市地域公共交通確保維持改善計画(地域内フィーダー系統)の概要

別添2



三次市の概要

- ・平成16年4月に1市4町3村が合併
- ・人口 53,615人(平成27年度国勢調査)
- ・面積 778.14km²

三次市地域公共交通会議の構成員

- 三次市 広島県 中国運輸局 三次警察署 学識経験者
- 住民又は利用者の代表 私鉄中国地方労組備北支部
- 備北交通(株) (有)君田交通 三次みどりタクシー(株)

概要

三次市は平成16年に旧三次市と双三郡、甲奴郡甲奴町が合併し広域な市となり、広域移動を中心として主要拠点間の移動を路線バスが担っている。しかし、急速な少子高齢化の進展や人口減少、マイカー利用を前提とした生活スタイルの定着等により、公共交通の利用は減少傾向にあり、その維持確保が困難な状況が生じている。一方で、合併による生活圏域の広域化等により市民の移動ニーズは多様化しており、こうしたニーズに対応した効果的・効率的な公共交通サービスの提供が必要である。持続可能な地域内交通を確保維持する取組として、市街地を循環するバス「くるん」、区域運行の公共交通空白地有償運送「さくぎニコニコ便」を実施している。また広域移動として、赤名線、下高野線の運行を実施している。

協議会の主な取り組み

- ・市街地循環便の整備
- ・地域内生活交通の再編
- ・路線バスの再編
- ・三次市民タクシー制度の改善
- ・車両バリアフリー化
- ・公共交通の利用促進策の推進(バスの乗り方教室等)
- 等網計画達成状況の評価・改善
- ・公共交通空白地域における有償運送の運営補助

協議会における検討

交通会議の開催状況 3回開催

- ・第1回(6月26日) 交通会議役員について協議
- ・第2回(8月29日) 平成30-32年度フィーダー系統確保維持計画隣接市町運営有償運送の本市乗り入れを協議
- ・第3回(12月8日) フィーダー系統確保維持計画事業評価を協議

定量的な目標・効果

市街地循環バスぐるん：(目標)1循環あたり7.0人以上(目標の根拠 H27.4～H28.3の利用者平均6.9人)
 (効果)市街地での通院や買い物等の移動支援

さくぎニコニコ便：(目標)1月あたりの利用者数を27人以上(目標の根拠 H27.4～H28.3の利用者平均26.8人)
 (効果)三次市中心部へ移動する際の接続向上,外出機会の提供,医療機関等への移動支援

赤名線：(目標)1便あたりの利用者数を5.0人以上(目標の根拠 H27.4～H28.3の利用者平均4.7人)
 (効果)三次市中心部への移動支援,通勤・通学,通院,買い物等の利用促進
 車両減価償却補助により1台車両を導入。2両で運行しており,うち1台が補助対象車両。

下高野線：(目標)1便あたりの利用者数を4.5人以上を3.0人以上とする。(目標の根拠 H27.4～H28.3の利用者平均 4.1人 2.9人)
 (効果)三次市中心部への移動支援,通勤・通学,通院,買い物等の利用促進

昨年度の自己評価に 対するフォローアップ

市街地循環バスぐるん
 市主催のイベントで時刻表等を掲載し,利用を呼び掛けた。
 赤名線 系統の再編及びダイヤの変更を実施した。
 下高野線 住民アンケートや運行事業者との協議を実施した。
 さくぎニコニコ便
 市民バスとの棲み分けなどについて,運行主体と協議を行った。

実施した利用促進策

- ・市主催イベントで,チラシやポスター等に時刻表の掲載を行い,利用を呼び掛けた。
- ・運行事業者の協力により,市内中学校で「バス教室」を実施した。
- ・運行事業者の協力により,全停留所の時刻や運賃額が掲載されたバスマップを作成した。

昨年度の運輸局二次評価に 対するフォローアップ

- ・運行実績をもとに,運行内容の見直し協議を行った。
- ・引き続きバスへの関心を高める取り組みを行った。

地域住民の意見の反映

- ・各地域の住民自治組織単位で生活交通について協議を行い,ニーズや現状の把握による運行内容の見直しや利用促進を進めていくことを目的にした,地域内生活交通検討会の設立を随時行っている。(平成29年11月現在,5か所で設立済み)
- ・沿線で交通に関する住民アンケートを実施した。結果については運行内容の見直し等の参考とする。

事業実施の適切性

すべての路線(区域)において、運行事業者並びに関係団体協力のもと、計画どおり事業は適切に実施された。

目標・効果達成状況

市街地循環バスくるん:(目標)1循環あたり7.2人で、目標7.0人以上を上回った。新たに立ち寄りを始めた施設(市民ホール)での利用も定着しつつあり、施設とタイアップし、さらなる利便性の向上を図る必要がある。
(効果)市街地での通院や買い物等の移動手段を確保維持することができた。

さくぎニコニコ便:(目標)1月あたりの利用者数が32.0人で、目標の27人以上を上回った。

(効果)三次市中心部へ移動する際の接続向上、外出機会の提供、医療機関等への移動支援を確保できた。

赤名線:(目標)1便当たりの利用者数4.1人で、目標5.0人以上を下回った。ニーズの掘り起こしを行うとともに、関係自治体で協議を行い、運行内容の見直しを含め、検討する必要がある。

(効果)三次市中心部への移動支援、通勤・通学、通院、買い物等の利用促進を図ることができた。

下高野線:(目標)1便当たりの利用者数は3.9人、は3.4人で、は目標を下回ったが、は目標を達成した。

(効果)三次市中心部への移動支援、通勤・通学、通院、買い物等の利用促進を図ることができた。

事業の今後の改善点

市街地循環バスくるん:利用者数の目標は上回ったが、今後も停留所周辺の施設とタイアップして利用を促すなど、さらなる利便性の向上を図る。

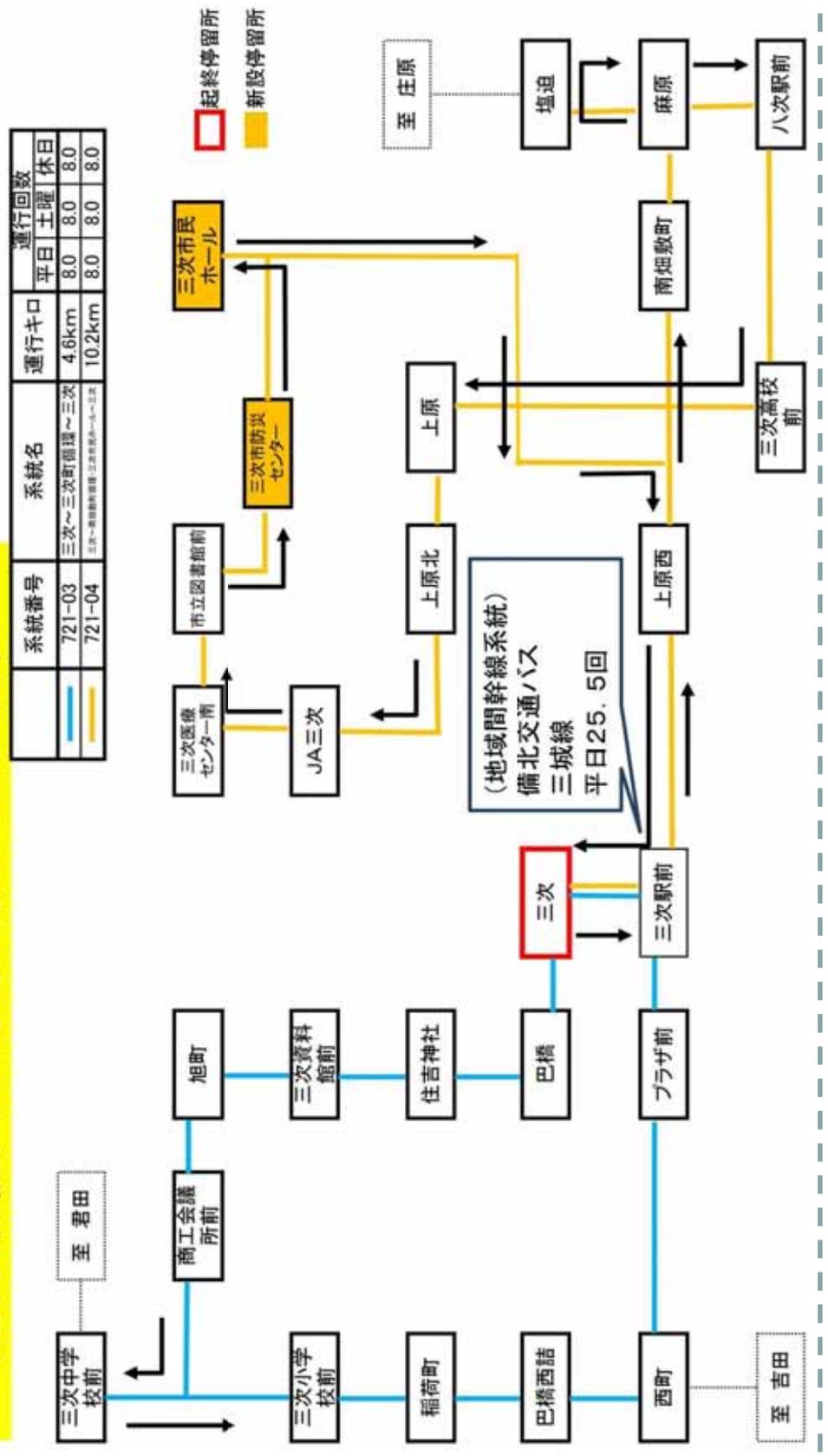
さくぎニコニコ便:他の交通手段への乗換等、作木町内生活交通検討会と連携しつつ、利便性の向上及び利用促進を図る。

赤名線:ニーズの掘り起しを行うとともに、関係自治体で協議を行い、運行内容の見直しを含め、検討を行う。
下高野線:平成26年度中の一部路線の変更を行ったことにより利用が徐々に伸びている。住民アンケートの結果を踏まえつつ、利便性向上と利用促進を図る。

運行系統図 別紙

系統名 三次町循環, 南畑敷町循環
 運行形態 4条路線・乗合バス型(定期)
 運行日・便数 1/1, 1/2を除く毎日運行 一日8便
 運賃 一乗車200円(高校生まで100円)

運行系統図(くるるん)H27.4.1現在



運行系統図 別紙

系統名 作木町上地区・中地区・下地区
 運行形態 公共交通空白地有償運送・区域デマンド型
 運行日・便数 月・水・金 上地区3便，中地区5便，下地区2便
 運賃 一乗車300円

運行系統図

公共交通空白地有償運送

平成28年10月1日現在

